

第百二十八項

最終議定書及附屬文書

附屬

明治三十四年九月七日北京ニ於テ

土箇國ノ全權委員ニ對シテ

印セシタル最終議定書及附屬文書

ニ在リ

7027

原初ノ手書也
山下経子
五ノ漢字
三行
一字下り

高
一
り
ア
キ

ア
キ

官報(明治三十四年十月三日) 抄録

○北清事変ニ関スル北京議定書及關係書類 昨三
十三年ノ北清事変ニ関シ本年九月七日北京ニ於テ
帝國並ニ外十箇國ノ全權委員ト清國全權
委員トノ間ニ記名調印セシメル最終議定
書及其關係重要書類左ノ如シ
前半ハ第一編第一項ニ出ツル連名公書及議定書
著ナリ茲ニ畧ス

0684

最終議定書

獨逸國全權委員

埃地利洪牙利國全權委員

白耳義國全權委員

西班牙國全權委員

亞米利加合衆國全權委員

佛蘭西國全權委員

大不列顛國全權委員

伊太利國全權委員

日本國全權委員

和蘭國全權委員

露西亞國全權委員

及
清國全權委員

ア、ムンヒ、フオン、シュワルツェンスタイン閣下

男爵 エム、チカン、フオン、マールボルク閣下

シュ、ユ、ー、ス、タ、ン、ス閣下

ベ、ジ、ー、ド、コ、ロ、ガ、ン閣下

ダブリ、ユー、ダブリ、ユー、ロツクホルン閣下

ボ、ー、ル、ボ、ウ閣下

サー、アー、ネスト、サト、ウ閣下

侯爵 サル、ヴァ、ゴ、ラ、ッ、シ、イ閣下

小、村、壽、次、郎閣下

エム、エム、ク、ノ、ー、ベ、ル閣下

エム、ム、ド、ギ、ー、ル、ス閣下

總理外務部 和碩慶親王奕劻殿下

太子太傅文華殿大學士商務大臣 李鴻章閣下

北洋大臣直隸總督部堂一等侯爵劉公府

ハ清國カ列國ノ満足スル如ク千九百年十二月二十二日ノ連名公書ニ列舉セ

ラレ且清國皇帝陛下ニ於テ千九百年十二月二十七日ノ勅諭第一號ヲ以テ其

ノ全部ヲ納レラレタル所ノ各條件ニ遵應シタルコトヲ確認スル爲メ茲ニ會

合スルモノナリ

第一條 甲

去ル六月九日ノ上諭第二號ヲ以テ醇親王載瀅清國皇帝陛下ノ大使ニ任セラ

レ此ノ資格ヲ以テ故獨逸國公使男爵「フオン、ケッテレル」閣下虐殺ノ件ニ關

シ清國皇帝陛下及清國政府惋惜ノ意ヲ獨逸國皇帝陛下ニ致スヘキコトヲ命

セラレタリ

醇親王ハ此ノ使命ヲ果サムカ爲ニ去ル七月十二日北京ヲ發程セラレタリ

第一條 乙

清國政府ハ故男爵「フオン、ケッテレル」閣下虐殺ノ地點ニ於テ死者ノ官位ニ

適合シ且羅甸語、獨逸語、清國語ヲ以テ右殺害ニ關シ清國皇帝陛下ノ惋惜ヲ

表スルノ銘誌ヲ有スル紀念碑ヲ建設スヘキコトヲ聲明シタリ
清國全權委員閣下ハ去ル七月二十二日ノ書簡第三號ヲ以テ道隆全權ノ牌坊
ヲ該地點ニ建設スルコト及去ル六月二十五日ヨリ其ノ工事ニ著手シタルコ
トヲ獨逸國全權委員閣下ニ通知シタリ

第二條甲

千九百一一年二月十三日及二十一日ノ各上諭附屬書第四號第五號及第六號ヲ以テ外國政府
及外國臣民ニ對スル非企及罪惡ノ首犯者ニ左ノ刑罰ヲ科シタリ
端郡王載漪及輔國公載瀾ハ斬監候ニ處セラレタリ而シテ若皇帝ニ於テ之ニ
恩典ヲ加ヘ死ヲ免カレシムヘシトノ恩慮アルトキハ之ヲ新疆ニ遠謫シテ永
久禁錮ニ處シ何等減刑ノ恩典ヲ加フルコト無カルヘキ旨約定セラレタリ
莊親王載勛 都察院左都御史英年及刑部尚書趙舒翹ハ自盡ノ刑ニ處セラレ
タリ

山西巡撫毓賢禮部尚書啓秀及前刑部左侍郎徐承煜ハ死刑ニ處セラレタリ
吏部尚書協辦大學士剛毅 大學士徐桐及前四川總督李秉衡ハ官位追奪ヲ宣
告セラレタリ

千九百一一年二月十三日ノ上諭附屬書ヲ以テ昨年ニ於ケル最モ憎ムヘキ國際
公法違反ノ行爲ニ反對シ之カ爲ニ生命ヲ奪ハレタル兵部尚書徐用儀 戶部
尚書立山 吏部左侍郎許景澄 內閣學士聯元及大常寺卿袁昶ノ官位ヲ復セラ
レタリ

莊親王ハ千九百一一年二月二十一日英年及趙舒翹ハ二十四日ニ自裁シ毓賢ハ
二十二日啓秀及徐承煜ハ二十六日ニ死刑ヲ執行セラレタリ

甘肅提督董福祥ハ後日ヲ待テ其ノ刑罰ヲ確定スヘキモノトシテ先ツ二月十
三日ノ上諭ヲ以テ其ノ官職ヲ奪ハレタリ

千九百一一年四月二十九日及八月十九日ノ各上諭ヲ以テ昨年夏季ニ於ケル非
企及罪惡ノ有罪者ト認メタル地方官吏ニ各自相當ノ刑罰ヲ科セラレタリ

第二條乙

千九百一一年八月十九日ノ上諭附屬書ヲ以テ外國人カ虐殺セタレ若ハ虐待セ
ラレタル各市府ニ於テ五箇年間科擧ノ停止ヲ命セラレタリ

第三條

故日本國公使館書記生杉山氏ノ虐殺ニ對シ名譽アル補償ヲ爲スカ爲ニ清國

本誌

皇帝陛下ハ千九百一一年六月十八日ノ上諭附屬書第九號ヲ以テ戶部侍郎那桐ヲ特使ニ任シ杉山氏虐殺ノ件ニ對スル清國皇帝陛下及其ノ政府ノ惋惜ノ意ヲ日本國皇帝陛下ニ致スヘキコトヲ特ニ命セラレタリ

第四條

清國政府ハ外國若ハ各國共同墓地ニシテ汚穢セラレ又ハ其ノ所在墳墓ノ破壞セラレタルモノハ各隨罪ノ紀念碑ヲ建設スルコトヲ約シタリ依テ關係公使館ハ右建設ニ關シ指示ヲ與フヘク清國ハ其ノ一切ノ費用ヲ支拂フヘキコトニ列國代表者トノ協議商定ヲ經タリ而シテ此ノ費用ハ北京及其ノ近傍ノ墓地ニ對シテハ各一萬兩地方ノ墓地ニ對シテハ各五千兩ト豫算シ該金額ハ支出ヲ了セラレタリ茲ニ其ノ墓地表ヲ添附ス附屬書第十號

第五條

清國ハ兵器彈藥及專ラ兵器彈藥ノ製造ニ使用セラルヘキ材料ヲ清國版圖内ニ輸入スルハ禁止ヲ承諾シタリ而シテ二箇年間該輸入ヲ禁止スル爲メ八月二十五日ノ上諭附屬書第十一號ヲ發布セラレタリ嗣後尙ホ列國ニ於テ之ヲ必要ト認ムル場合ニハ更ニ上諭ヲ以テ前記ノ期限ヲ引續キ二箇年宛延長スルコトヲ得

第六條

清國皇帝陛下ハ千九百一一年五月二十九日ノ上諭附屬書第十二號ヲ以テ列國ニ四億五千萬海關兩ノ償金ヲ支拂フコトヲ約諾セラレタリ此ノ金額ハ即千九百一十二年十二月二十二日ノ連名公書第六條ニ指定シタル國家、團體、個人及清國人ニ對スル償金ノ總額ヲ表示スルモノトス

(甲) 此ノ四億五千萬兩ハ左ニ示スカ如ク海關兩ノ列國金貨ニ對スル相場ニ基キ計算シタル金貨債ヲ組成スルモノトス

一海關兩ハ

三〇五五

「マルク」

三五九五

「フランク」

〇七四二

「金」

三七五〇

「フランク」

〇三志〇片

一四〇七

「圓」

一七九六

「國」

一四二二

「金」

ニ相當ス

4029

清國ハ右金貨債額ニ年四分ノ利子ヲ附シ別紙償還表附屬書第 十三號ニ示セル條
件ニ從ヒ三十九箇年ヲ以テ其ノ元金ヲ支拂フヘキモノトス
元金及利子ノ支拂ハ金貨ヲ以テスルカ若ハ各支拂期日ニ於ケル爲換相場
ヲ以テスヘシ

元金償還ハ千九百二年一月一日ニ始マリ千九百四十年ノ末ニ終ル償還金
ハ毎年之ヲ支拂フヘキモノトシ其ノ第一回ノ拂込期限ヲ千九百三年一月
一日ト定ム

利子ハ千九百一年七月一日ヨリ起算ス然レトモ清國政府ハ千九百一年十
二月三十一日ニ終ル第一期六箇月分ノ利子ヲ千九百二年一月一日以後三
箇年ノ期限内ニ支拂フコトヲ得但シ右延滞額ニ對シテハ年四分ノ重利ヲ
附スヘキモノトス

利子ハ六箇月毎ニ支拂フヘキモノトシ其ノ第一回ノ拂込期限ヲ千九百二
年七月一日ト定ム

(乙) 公債支拂ハ左記ノ方法ニ依リ上海ニ於テ之ヲ行フヘシ
列國ハ各一名ノ委員ニ依リテ銀行者委員會ニ代表セラルヘシ該委員會ハ
特ニ之カ爲ニ指定セラレタル清國官吏ヨリ利子及元金ノ支拂ヲ受ケ之ヲ
各關係者ニ配分シ且之ニ對シテ領收證ヲ交付スヘキ任務ヲ有スルモノト
ス

(丙) 清國政府ハ北京駐葡筆頭公使ニ償金總額ニ對スル一ノ債券ヲ交付
スヘシ而シテ右債券ハ追テ特ニ之カ爲ニ指定セラレタル清國政府委員ノ
記名セル小額債券ニ變換セラルヘキモノトス右ノ事務及債券ノ發行ニ關
スル一切ノ事務ハ列國カ其ノ代表員ニ下スヘキ訓令ニ準シ前記委員會ニ
於テ之ヲ處理スヘシ

(丁) 債券ノ支拂ニ充テタル財源ヨリ生スル收入ハ毎月之ヲ委員會ニ交
付スヘシ

(戊) 債券ノ擔保ニ供セル財源ヲ列舉スルコト左ノ如シ
第一 新稅關ノ收入ヲ抵當トシタル舊外國債ノ利子及元金ヲ拂ヒタル
上存スル該收入ノ剩餘金ニ海路輸入品ニ對シ現行稅率ヲ現實五分稅ニ
引上グルヨリ生スヘキ收入ヲ加ヘタルモノ但シ外國ヨリ輸入ノ米穀
類穀粉、金銀貨及金銀地金ヲ除クノ外從來無稅ニテ輸入セラルル各物

和

0688

品ハ總テ五分稅ヲ拂フヘシ

第二 開港場ニ於テハ新稅關ノ管理ニ屬スル舊稅關ノ收入

第三 鹽稅ノ收入總額但シ從來外國債ノ擔保ニ充テラレタル分ヲ除ク

現行輸入稅率ヲ現實五分稅ニ引上ルコトハ下記ノ條件ヲ以テ承諾セラレヌ

此ノ稅率引上ハ本議定書調印ノ日附ヨリ二箇月後ニ之ヲ實施シ而シテ右日

附ヨリ過クモ十日以内ニ運搬ノ途ニ上リタル商品ノ外其ノ適用ヲ免ガルル

コトヲ得サルモノトス

第一 從價ニテ徵收シ來レル輸入稅ハ爲シ得ル限り且成ルヘク速ニ從量

稅ニ改定スヘキモノトス此ノ改定ハ左ノ如クスヘシ即千八百九十七年

千八百九十八年及千八百九十九年ノ三箇年間ニ於ケル各商品陸上當時ノ

平均價格換言スレハ輸入稅及雜費ヲ控除シタル市價ヲ以テ評價ノ基礎ト

ス但シ右改定ノ結了ヲ見ルニ至ル迄ノ間ハ從價ニテ徵稅スルコト

第二 白河及黃浦江ノ水路ハ清國ノ經費分擔ヲ以テ之ヲ改良スルコト

第七條

清國政府ハ各國公使館所在ノ區域ヲ以テ特ニ各國公使館ノ使用ニ充テ且全

然公使館警察權ノ下ニ屬セシメタルモノト認メ該區域内ニ於テハ清國人ニ

住居ノ權ヲ與ヘス且之ヲ防禦ノ狀態ニ置クヲ得ルコトヲ承諾シタリ此ノ區

域ノ境界ハ別紙圖面附圖第ニ示ス如ク定メラレタリ即

西方ハ 一二三三四五線

北方ハ 五六七八九十線

東方ハ 一ケツテレル街ノ十一十二線

南方ハ 驪靬城壁ノ南址ニ循ヒ城壕ニ沿フテ畫シタル十二一線

清國ハ千九百一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ其ノ

公使館防禦ノ爲ニ公使館所在區域内ニ常置護衛兵ヲ置クノ權利ヲ認メタリ

第八條

清國政府ハ大沽砲臺並ニ北京ト海濱間ノ自由交通ヲ阻得レ得ヘキ諸砲臺ヲ

削平セシムルコトヲ承諾シタリ而シテ右ニ關スル處置ハ實施セラレタリ

第九條

清國政府ハ千九百一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ

第

首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セムカ爲ニ相互ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地
點ヲ占領スルノ權利ヲ認メタリ即此ノ各國ノ占領スル地點ハ黃村、郎房、楊
村、天津、軍糧城、塘沽、蘆臺、唐山、灤州、昌黎、秦皇島及山海關トス

第十條

清國政府ハ二箇年間地方ノ各市府ニ左記ノ上諭ヲ揭示公布スルコトヲ約諾
シタリ

- (甲) 排外的團體ニ加入スルコトヲ永久ニ禁止シ犯ス者ヲ死刑ニ處スル
旨ヲ記載シタル千九百一一年二月一日ノ上諭附國書第十五號
- (乙) 有罪者ニ科シタル刑名ヲ列舉シタル千九百一一年二月十二日、二月
二十一日、四月二十九日及八月十九日ノ上諭
- (丙) 外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テ科擧ヲ停止
スル千九百一一年八月十九日ノ上諭
- (丁) 總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管轄内ニ於ケル秩序ニ對シ
テ職責ヲ有スヘク且排外的紛擾ノ再發竝ニ其ノ他條約違反ノ事アルニ當
リ直ニ之ヲ鎮定セス又ハ其ノ犯罪者ヲ處罰セザル場合ニハ該官吏ハ直ニ
罷免セラレヘク且新官職ニ任命セラレ若ハ新名譽ヲ享受スルコト能ハサ

以上ノ上諭ハ全帝國內ニ漸次揭示セラレツツアリ

第十一條

清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正竝ニ通商上ノ關
係ヲ便利ナラシムル爲メ其ノ他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約諾シ
タリ

清國政府ハ償金ニ關スル第六條中ノ規定ニ基キ今ヨリ左記ノ如ク白河及黃
浦江水路ノ改良ニ協力スルコトヲ約諾シタリ

(甲) 千八百九十八年清國政府ノ協同ヲ以テ創始セラレタル白河航路ノ
改良工事ハ各國委員ノ管理ノ下ニ再興セラレタリ天津ニ於ケル行政ノ清
國政府ニ返還セラレタル上ハ清國政府ハ直ニ自己ノ代表者ヲ該委員ニ加
フルコトヲ得ベク且工事ノ維持費トシテ毎年六萬兩ヲ支出スヘシ

(乙) 黃浦江更正及其水路改良工事ノ指擯監督ヲ掌ルヘキ水路局ヲ設置ス
該局ハ上海ノ海路貿易ニ於ケル清國政府ノ利益ト外國人ノ利益トヲ代表
スル委員ヲ以テ組織ス經營ノ事業及一般ノ事務ニ必要ナル費用ハ最初二
十箇年間ハ毎年四十六萬兩ト見積リ清國政府ト關係者タル外國人トニ於
テ各其ノ半額ヲ支出スヘシ水路局ノ組織、職權及收入等ニ關スル細則ハ
附屬書中ニ之ヲ記載ス附屬書第十七條

第十二條

千九百一一年七月二十四日ノ上諭附屬書第十八條ヲ以テ列國ノ指定シタル旨趣ニ因
リ外交事務衙門タル總理衙門ヲ改革セラレタリ即總理衙門ヲ外務部ト改メ
テ他ノ六部ノ上位ニ置クコトト爲シテ又前記ノ上諭ヲ以テ外務部ノ主
要ナル官吏ヲ任命セラレタリ
外國代表者ノ謁見ニ關スル宮廷ノ禮式ニ關シテモ亦既ニ商定ヲ經タリ此ノ
件ニ關スル清國全權委員ノ書簡撤通アリ別紙覺書ニ其ノ要點ヲ摘載ス附屬
書第十九號
終リニ前記ノ各宣言及列國全權委員ヨリ發シタル附屬文書ニ關シテハ佛文
ヲ以テ憑ト爲スコトヲ特ニ約定ス
斯ノ如ク清國政府ハ列國ノ満足スル如ク千九百一十二年十二月二十二日ノ建名公
書ニ列舉セラレタル各條件ニ遵應シタルヲ以テ列國ハ千九百一一年夏季ノ騷擾
ヨリ發生シタル状態ノ終止ニ至ラムコトノ清國ノ希望ヲ承允シタリ之ニ因
テ列國全權委員ハ第七條ニ記載シタル公使館護衛兵ヲ除キ千九百一一年九月
十七日ヲ以テ北京ヨリ全然列國軍隊ヲ撤退シ又第九條ニ記載シタル地點ヲ
除キ同年九月二十二日ヲ以テ直隸省ヨリ撤兵スヘキコトヲ其ノ各自ノ政府
ノ名ヲ以テ茲ニ宣言ス

4031

本最終議定書ハ同文十二通ヲ作り各締約國全權委員之ニ署名シ列國全權委員ニ一通宛ヲ交付シ清國全權委員ニ一通ヲ交付ス
千九百二年九月七日北京ニ於テ

- ア、ム、ン、ム、ン、ム、ン (署名)
- エ、ム、チ、カ、ン (署名)
- ジュース、マ、ン、ス (署名)
- ペーゼード、コロガン (署名)
- ダンリニ、マン、フ、リ、ニ、ロ、ク、ロ、ル (署名)
- ボ、ウ (署名)
- アーネスト、サトウ (署名)
- サルヴァゴ、ラッジョ (署名)
- 小村、海、大、郎 (署名)
- ニフ、ユ、ム、ク、ノ、ー、ベル (署名)
- ヨ、ム、ド、ギ、ール、ス (署名)
- 奕、助 (署名)
- 李、鴻、章 (署名)

附屬書第一號(千九百二年十二月二十七日上諭)

上諭

國寶

光緒二十六年十一月六日 旨ヲ奉ス奕助及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照允スヘシ此ヲ欽メヨ

光緒二十六年十二月二十四日

附屬書第二號(千九百二年正月九日上諭)

醇親王載澂ヲ頭等專使大臣トシテ獨逸國ニ前往シ敬謹命ヲ行ハシメ前内閣

0692

万
千

万
千

學士張翼副都統騰昌ハ何レモ隨同前往シテ一切ニ參贊スルヲ命ス此ヲ欽
附屬書第三號(千九百一一年七月二十二日清國全權大臣ヨリ獨國公使ヘノ來
簡)

以書翰致啓上侯陳者本年五月三日附書備ヲ以テ連名公書第一條ニ載明シテ
ル故獨國克大臣被害ノ場所ニ銘誌ノ碑ヲ建立スルコトニ關シ御照會之趣致
了承侯右ニ付テハ章京端良及侯選道聯芳ニ於テ奉派辦理シ既ニ其ノ設計等
ニ關シ本衙門ニ向ツテ度度商議ノ折柄再ヒ照會ヲ以テ右被害ノ場所ニ大理
石ヲ用井其ノ幅崇文門大街ヲ滿タスヘキ牌坊一座ヲ建立センコトヲ希望ス
ルモ材料ノ轉運困難ニシテ工事ニ許多ノ時日ヲ費スヘキニ因リ別ニ法ヲ設
ケ他處ニ現存セル牌樓ヲ被害地點ニ移立スルカ又ハ新ニ建立スルカ若ハ舊
來ノモノヲ流用スルカハ何レモ本國ノ裁決ヲ請フヘキヲ以テ本大臣ハ政府
ノ意向ヲ電詢セン處茲ニ回諭ヲ奉スルニ獨國大皇帝ノ意慮ニテハ新ニ牌坊
一座ヲ設立シ大街ニ滿タスヘントアリ自ラ割切ナルニ依リ迅速ニ妥辨シ以
テ即刻起工ニ便セラレンコトヲ請フ旨御申越相成候ニ付本王大臣ハ直ニ之
ニ遵照シテ辦理方前願章京等ニ訓令ニ及ヒ候處既ニ五月十日ヨリ工事ニ著
手シ先ツ地基ヲ築キタルモ山ヲ開キ石ヲ鑿リ且材料ヲ運搬スルニハ何レモ
時日ヲ要ス乍去只管工人ヲ督飭シ力ヲ盡シ妥速辦理スヘキ旨復申有之候ニ
依リ尙一切ノ工事ニ付テハ時時稟商スヘキ旨訓令及置候此段回答得貴意候
敬具

光緒二十七年六月七日

附屬書第四號(千九百一一年一月十三日上諭)

京師五月ヨリ以來拳匪亂ヲ倡ヘ紳ヲ友邦ニ開ケリ現ニ奕劻及李鴻章ハ各國
使臣ト共ニ京ニ在テ和ヲ議シ大綱ノ草約ハ既ニ畫押セシメタリ肇禍ノ始ヲ
追思スレハ實ニ諸王大臣ノ昏謬無知嵩張跋扈ニ因ル深ク邪術ヲ信シ朝廷ヲ
挾制シ拳匪ヲ勦辨セシメントスル上諭ニハ抗シテ遵行セス反テ拳匪ヲ縱信
シ妄ニ攻戰ヲ行ヒ以テ邪焰大ニ張り數萬ノ匪徒ヲ肘腋ノ下ニ聚メ勢逼ムヘ
カラサルヲ致ス又鹵莽ノ將卒ニ主令シ使館ヲ圍攻シ竟ニ數月ノ間ニ奇禍ヲ
釀成シ社稷ヲ陸危シ陵廟ヲ震驚シ地方ヲ蹂躪シ生民ヲ塗炭ニス朕ト皇太后

トノ危険ナリシ情形ハ言狀スルニ堪ヘス今ニ至リ痛心疾首悲憤交々深シ該諸王大臣邪ヲ信シ匪ヲ縱テ上ハ宗社ヲ危クシ下ハ黎元ニ禍ス自ラ如何ノ罪ニ該當スルカヲ問ヘ前ニ既ニ兩回諭旨ヲ下セシモ尙法ノ輕クシテ情ノ重ク率ヲ蔽フニ足ラサルヲ覺ユ故ニ更ニ其等差ヲ分別シ加フルニ懲處ヲ以テスヘシ既ニ革職シタル莊親王載勛ハ拳匪ヲ縱容シ使館ヲ圍攻シ擅ニ條約違背ノ告示ヲ出シ又輕シク匪徒ノ言ヲ信シ多人ヲ枉殺シ實ニ愚暴冥頑ニ屬スルニ由リ自盡ヲ命シ署左都御史葛寶華フシテ前往檢視セシム既革端郡王載漪ハ諸王貝勒ニ倡率シ輕シク拳匪ヲ信シ妄言戰ヲ主トシ鮮端ヲ肇ムヲ致ス其ノ罪實ニ辭シ難シ又降級シテ他官ニ調用シタル輔國公載瀾ハ職助ニ隨同シ安ニ條約違背ノ告示ヲ出セリ其ノ罪ニ由リ亦官爵ヲ革去スヘキ管ナルモ惟懿親ニ屬スルヲ念ヒ特ニ恩ヲ加ヘ新疆省ニ發往シ永遠ニ監禁セシムル爲メ先ツ員ヲ派シ看管セシム既革巡撫毓賢ハ前ニ山東巡撫ノ任ニ在リシ時妄ニ拳匪ノ邪術ヲ信シ今ニ至ルマテ之ヲ稱譽シ以テ諸王大臣ガ其ノ煽惑ヲ受クルヲ致ス山西巡撫ノ任ニ在ルニ及ヒ又教士ト教民ノ多人ヲ戕害シ最モ昏蒙兇殘ニシテ罪魁且禍首タルニ屬スルニ由リ前ニ既ニ新疆ニ發遣セシメタリ計ルニ今ハ甘肅ニ行キシナラン旨ヲ傳ヘ直ニ法ヲ正スヲ命シ按察使何福瑩フシテ行刑ヲ檢視セシム前協辦大學士吏部尙書剛毅ハ拳匪ニ袒庇シ巨禍ヲ釀成シ且條約違背ノ告示ニ同意シテ之ヲ出セリ本來彼ハ重典ニ處セラルヘキ管ナルモ現ニ既ニ病死セシヲ以テ原官ヲ追奪シ直ニ革職ヲ命ス又革職留任ノ甘肅提督董福祥ハ兵ヲ統ヘテ入衛セルニ拘ハラヌ紀律ヲ嚴ニセズ又交涉ヲ藉キス舉憲兩使館ヲ圍攻セシム前副都統王等ノ指使ニ係ルト雖究ニ其ノ咎ヲ辭シ難ク本來重ク懲スヘキ管ナルモ姑ク其ノ甘肅ニ在テ平素勞績ヲ著ハシ回回放民ト漢人トニ悅服セラルルヲ思ヒ格外ニ寬ニ從ヒ直ニ革職ヲ行ヒ降調セシム都察院左都御史英年ハ職助カ擅ニ條約違背ノ告示ヲ出スニ對シテハ當テ阻止シタルヲ以テ其ノ情尙宥スヘキモ未ダ能ク力爭セズ究ニ其ノ咎ヲ辭シ難キニ由リ恩ヲ加ヘ革職ヲ命シ斬監候トス又革職留任刑部尙書趙舒翹ハ平日尙外交ヲ嫉視スルノ意ナク前ニ拳匪ヲ查辨セシ時モ亦庇縱ノ詞ナカリシモ究ニ草率ニシテ誤ヲ貽スニ屬スルニ由リ恩ヲ加ヘ革職ヲ命シ斬監候トス英年ト趙舒翹トハ何レモ先ツ陝西省ニ在テ監禁セシム又大學士徐桐ト降調前任四川總督李秉衡トハ何レモ既ニ難ニ殉ヒ死去シタル

ちり

モ人ノ口實ヲ貽スニ由リ何レモ革職ヲ命シ且郵典ヲ撤銷セシム今回ノ旨ヲ降シタル以後凡ソ我友邦ノ何レモ共ニ拳匪ノ禍ヲ肇メタルハ實ニ禍首ノ激追シテ成シタルモ決シテ朝廷ノ本意ニアラス朕カ禍首ノ諸人ヲ懲辦シ輕シク縱スナキコトヲ諒スルナラン即天下ノ臣民モ亦此ノ案ノ關係重大ナルニ曉然トラン此ヲ欽メヨ

附屬書第五號(千九百一年二月十三日上諭)
禮部尙書啓秀ト前刑部左侍郎徐成煜トハ先ツ革職ヲ命シ奕劻及李鴻章ヲテ其ノ犯罪ノ確據ヲ查明シ直ニ奏明ヲ行ハシム此ヲ欽メヨ
附屬書第六號(千九百一年二月二十一日上諭)

光緒二十七年正月三日内閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス
今回ノ案件ニ關スル首禍ノ諸臣ハ昨已ニ分別シテ嚴ニ懲辦ヲ行ハシムル旨ヲ降セシ處茲ニ奕劻及李鴻章ノ電奏ニ據ルニ各國全權大臣ヨリ尙加重スヘシト照會セシニ因リ酌奪ヲ懇請ストノ趣ナリ職助ハ既ニ自盡ヲ賜ヒ統賢ハ已ニ直ニ法ヲ正スヲ命シ何レモ各員ヲ派シテ檢視セシム此ノ餘職滿洲ハ何レモ斬監候ト定メタルモ其ノ誼懿親ニ屬スルヲ念ヒ特ニ恩ヲ加ヘ極邊ナル新疆ニ發往シ永遠監禁セシムル爲メ即日員ヲ派シ押解起程セシム剛毅ノ情罪ハ較重シ斬立決ト定メタルモ已ニ病死セシヲ以テ之ヲ免ス英年ト趙舒翹トハ昨已ニ斬監候ト定メタルモ直ニ自盡セシムル爲メ陝西巡撫岑春煊ヲ派シ前往シテ檢視セシム啓秀ト徐承煜トハカメテ拳匪ヲ庇ヒ專ラ洋人ト難ヲ爲セル旨各國ヨリ指稱セシニ因リ昨已ニ革職トシタルモ奕劻及李鴻章ニ命シ各國ニ照會シテ之ヲ交回シ直ニ法ヲ正ス爲メ刑部堂官ヲ派シテ檢視セシム徐桐ハ拳匪ヲ輕信シ誤ラ大局ニ貽シ李秉衡ハ好ムテ高論ヲ爲シ固執ニシテ禍ヲ醸シタルニ由リ何レモ斬監候ト定メタルモ難ニ臨ミ自盡セシヲ念ヒ巴里革職シテ其ノ郵典ヲ撤銷セシメテ再議ヲ免ス首禍諸人ノ犯シタル罪狀ハ前旨内ニ逐一明白ニ釋敘セリ此ヲ欽メヨ
附屬書第七號(千九百一年二月十三日上諭)

百

百

百

七六一

本年五月間拳匪亂ヲ倡ヘ勢日ニ熾張ナリ朝廷ハ勦滅鎮撫共ニ難キヲ以テ屢次臣下ヲ召見シ一是ニ折衷セント期セル處兵部尙書徐用儀戸部尙書立山吏部左侍郎許景澄内閣學士聯元太常寺卿袁昶ハ朕カ一再諮詢セルニ對シ詞意兩可ニ涉リシヲ以テ首禍ノ諸臣ハ遂ニ機ニ乘シテ誣陷シ交々奏シテ參劾シ以テ其身死刑ニ罹ルヲ致シタルモ徐用儀等ハ盡力年アリ平日交涉事件ノ辦理モ亦能ク和衷シテ勞績ヲ著ハシタルヲ念ヒ直ニ恩ヲ加ヘ徐用儀立山許景澄聯元袁昶何レモ原官ニ復スルヲ命シ吏部ニ知ラシムヘシ此ヲ欽メヨ

附屬書第八號(千九百一年八月十九日上諭)
光緒二十七年七月六日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス
本日奕劻及李鴻章ヨリ各國ニ於テ滋事ノ地方ハ五箇年間文武ノ考試ヲ停止スル事ヲ議定セル趣ヲ具奏セル奏摺中順天太原地方ノ鄉試ハ仍舊ニ停止スヘシ云トアリ其ノ附屬書ニ列記セル山西省ノ太原府忻州太谷縣大同府汾州府孝義縣曲沃縣大甯府河津縣岳陽縣朔平府文水縣壽陽縣平陽府長子縣高平縣澤州府隰州蒲縣絳州歸化城綏遠城河南省ノ南陽府光州浙江省ノ衢州府直隸省ノ北京順天府保定府永清縣天津府順德府望都縣獲鹿縣新安縣通州武邑縣景州灤平縣東三省ノ盛京甲子廠建山字慶街北林子呼蘭城陝西省ノ甯夏州湖南省ノ衡州府等ノ地方均シテ應ニ文武ノ考試ヲ停止スルコト五年各省總督巡撫學政ニ著レテ遵照辦理シ告示ヲ出シテ曉諭セシムヘシ此ヲ欽メヨ

附屬書第九號(千九百一年六月十九日清國全權大臣ヨリ帝國公使ヘノ來簡)
以書翰致啓上候陳者五月三日西安軍機處ヨリ左ノ來電ニ接シ候
旨ヲ奉ス戸部右侍郎那桐ニ頭品頂戴ヲ賞給シ專使大臣トシテ大日本國ニ前往シ敬謹命ヲ行ハシム此ヲ欽メヨ
右御承知相成度此段照會得貴意候敬具
光緒二十七年五月四日

附屬書第十號
北京附近ニ於テ汚瀆セラレタル墓地表

英國墓地	一箇所
佛國墓地	五箇所
露國墓地	一箇所
合計	七箇所

森

万
ア
キ

附屬書第十一號(千九百一一年八月二十五日上諭)

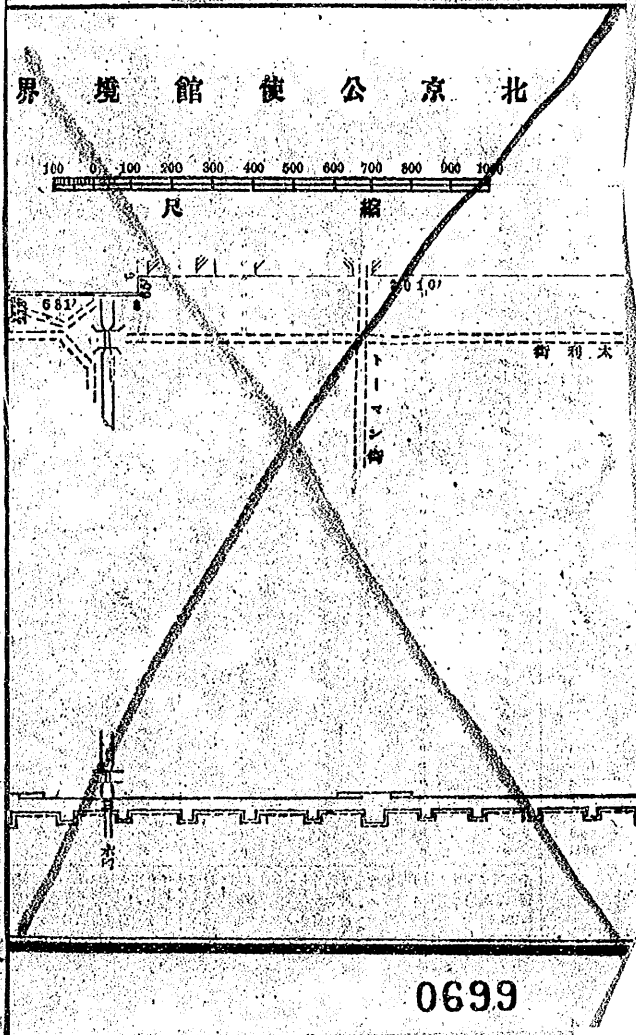
七月十一日在上諭ヲ奉ス
各省將軍、總督、巡撫及各關監督ハ先ツ二箇年間都テ外國ノ軍器障礙及軍ヲ
軍器彈藥ノ製造ニ供スル器械及材料ハ一切之ヲ購入シ國內ニ輸入スルヲ權
サス此ノ旨該部ニ於テ知道スヘシ此ヲ欽メヨ

(三編)

附屬書第十二號(千九百一一年五月二十九日清國全權大臣ヨリ筆頭公使ヘノ
來簡)

以書翰致啓士侯陳者四月七日貴大臣ノ照會内ニ西曆本年五月七日即中曆三
月十九日賠償金ノ一事ニ關シ各國ノ支出金及公私各種ノ損害ハ西曆本年七
月一日即中曆五月十六日ノ決算ニテ概計ノ銀數ハ四億五千萬兩内外ナリト
シ照會ニ對スル貴王大臣ノ照復文中ニ中國政府ハ毎月百二十五萬兩ヲ支拂
ヒテ該四億五千萬兩ヲ皆濟セント擬スト有之右ハ諸國全權大臣ニ於テ既ニ
各本國政府ヘ詳細報告濟ニ候處惟中國政府ノ擬セラルル毎月支拂ノ總數ナ
ルモノハ億ニ賠償ノ元金式ニ過キス未タ其ノ利子ヲ算セサルカ故ニ本筆頭
大臣ハ貴王大臣カ再ヒ酌核ヲ行ヒ本件ニ關スル中國政府ノ主意ヲ速ニ示復
セラレンコトヲ請フ旨御中越相成致了承候查スルニ賠償金ノ一事ニ關シテ
ハ前次ノ照會中ニ中國總督ノ情形ヲ致佈達候處茲ニ來文ニ毎年ノ附銀千五
百萬兩ハ三十年ニテ償ニ賠償元金ヲ皆濟スヘキモ利子ノ一事ハ如何スヘキ
主意ナリヤト御詢及相成候ニ付本王大臣ニ於テ毎年四釐ノ利子ヲ加ヘント
擬シ既ニ電奏ニ及ヒ候處各國ヘノ賠償金四億五千萬兩ニ四釐ノ利子ヲ附ス
ルコト照辦ヲ許可ストノ旨ヲ奉シ候ニ因リ欽遵シテ茲ニ及御通知候惟中國
ノ財力ハ短絀ニ過キ能ク籌撥シ得ヘキハ依然毎年千五百萬兩ノ專款ニ止マ
リ候處テハ元金以外ニ附スヘキ利子ハ三十年ノ期限ヲ寬ニ延ベ其ノ上半期
ニ於ケル毎年支出ノ千五百萬兩ハ元金ニ支拂フモノト爲シ下半期ニ於ケル
毎年支出ノ千五百萬兩ハ利子ニ支拂フモノト爲シ皆濟ノ日ヲ以テ款ヲ附ス
ルヲ停止シ矢張稅務司ヲシテ經理セシメ其ノ利子ヲ附スル一段ハ上年ニ元金
若干ヲ支拂ヒタルニ因リ次年ノ利子ハ若干ヲ減スルコトトシテ核算ス此ノ
如ク期ヲ分テテ元金ヲ支拂ヒ利子ヲ附スヘキカ抑ミ或ハ毎年千五百萬兩中

4034



4035

丁

附屬書第十四號

在北京公使館地域區劃ノ說明

1 點ハ正陽門樓ノ東側ヨリ東へ距ル百呎、經街南城壁ノ上ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ殆ト正北ニ向ヒ二百十六呎ノ延長ヲ以テ2點ニ達ス
 2 點ハ皇城大清門前奉盤街ヲ圍繞セル白石欄ノ東南角ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ該欄ノ東側ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ三百十呎ノ延長ヲ以テ3點ニ達ス

3 點ハ公使館街(東交民巷)ニ連續スル道路ノ北側ニ在リテ2點ヨリ來ル境界線ト公使館街北側ノ延長線トノ交叉スル處ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ公使館街ノ北側ニ沿ヒ(城壁ノ外國及其ノ角ニ附イテ測定シ)六百四十一呎半ノ延長ヲ以テ4點ニ達ス

4 點ハ公使館街ノ北部ニ沿ヒテ測定シ「ゲーメリ」街(兵部街)ノ角(西南)ヨリ西百四十六呎ノ處ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ(建築物ノ外國及其ノ角ニ附イテ測定シ)二千五百五十二呎ノ延長ヲ以テ概シテ北ニ向フ但シ現存建築物ニ沿ヒ其ノ間隙ニ在リテハ「ゲーメリ」街左側大體ノ道筋ニ並行線ヲ畫シ以テ「ゲーメリ」街ト皇城外廓トヲ通スル門ノ西側ヨリ西へ百五十七呎ノ處即5點ニ達ス

5 點ハ「ゲーメリ」街街端ニ在ル門ノ西側ヨリ百五十七呎ヲ隔テ皇城外廓南城壁ノ南面ニ在リ此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正東ニ向ヒ千二百八十八呎ノ距離ヲ以テ6點ニ達ス

6 點ハ皇城外廓ノ東南角ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ直線ノ測定ニ依リ二百十八呎ノ距離ヲ以テ7點ニ達ス

7 點ハ外廓ノ東北角ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ殆ト正東ニ向ヒ六百八十二呎ノ距離ヲ以テ8點ニ達ス

8 點ハ皇城城壁ノ東南角トス
 此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ六十五呎ノ距離ヲ以テ9點ニ至ル

9 點ハ皇城城壁東南角ヨリ六十五呎ノ處ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ正東ニ向ヒ三千十呎ノ延長ヲ以テ10點ニ達ス

10 點ハ「ゲッテレル」街ノ西側ニテ同街ト伊太利街(長安街)トノ交叉角ヨリ三百呎ノ處ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ「ゲッテレル」街ノ西面ニ沿ヒ殆ト正南ニ向ヒ11點ニ達ス

11 點ハ經街南城壁ノ上ニテ即崇文門ノ西北角ニ在リ
 此ノ處ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ且崇文門西方ノ馬道ヲ取込ミ12點ニ達ス

12 點ハ崇文門樓ヨリ西へ百呎ヲ隔テ城壁ノ上ニ在リ
 此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ノ南面ニ沿ヒ圖ニ示ス如ク城壕ヲ取込ミテ進ミ1點ニ接合ス圖中目標トシテ示セル諸點左ノ如シ

A 經街城壁頂上ノ北側ニ沿ヒテ東ニ向ケ測定シ正陽門樓ヨリ百七呎ニ於ケル點トス

B 經街城壁北側ノ頂上ニテ恰モ洗水渠ヲ縱斷セル中央線上ニ於ケル點トス

C 崇文門樓ノ西北角トス

印

0701

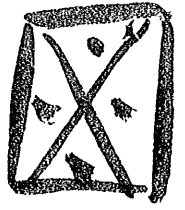
0700

以ノ次ニ本館回一彙ヲカ
 印

附屬書第十二號(千九百一一年五月二十九日清國全權大臣ヨリ筆頭公使ヘ
 來信)
 以書翰上候陳者四月七日貴大臣ノ照會内ニ西曆本年五月七日即中曆三
 月十九日賠償金ノ一事ニ關シ各國ノ支出金及公私各種ノ損害ハ西曆本年七
 月一日即中曆五月十六日ノ決算ニテ概計ノ銀數ハ四億五千兩内外ナリト
 ノ照會ニ對スル貴大臣ノ照復文中ニ中國政府ハ毎月百二十五萬兩ヲ支拂
 ヒテ該四億五千兩ヲ償済セシムト擬ス有之右ハ諸國全權大臣ニ於テ既ニ
 各本國政府ヘ詳細報告済ニ候處惟中國政府ノ擬セラルル毎月支拂ノ總數ナ
 ルモノハ僅ニ賠償ノ元金式ニ過キ未タ其ノ利子ヲ算セサルカ故ニ本筆頭
 大臣ハ貴王大臣カ再々酌核ヲ行ヒ本件ニ關スル中國政府ノ主意ヲ速ニ示復
 セラレンコトヲ請フ旨御申越相成致了承候查テ賠償金ノ一事ニ關シテ
 ハ前次ノ照會中ニ中國艱窘ノ情形ヲ致佈達候處茲ニ來書ニ毎年ノ附銀千五
 百萬兩ハ三十年ニテ僅ニ賠償元金ヲ皆済スヘキモ利子ノ一事ハ前書ニハキ
 主意ナリヤト御詢及相成候ニ付本王大臣ニ於テ毎年四釐ノ利子ヲ加ヘ

0701

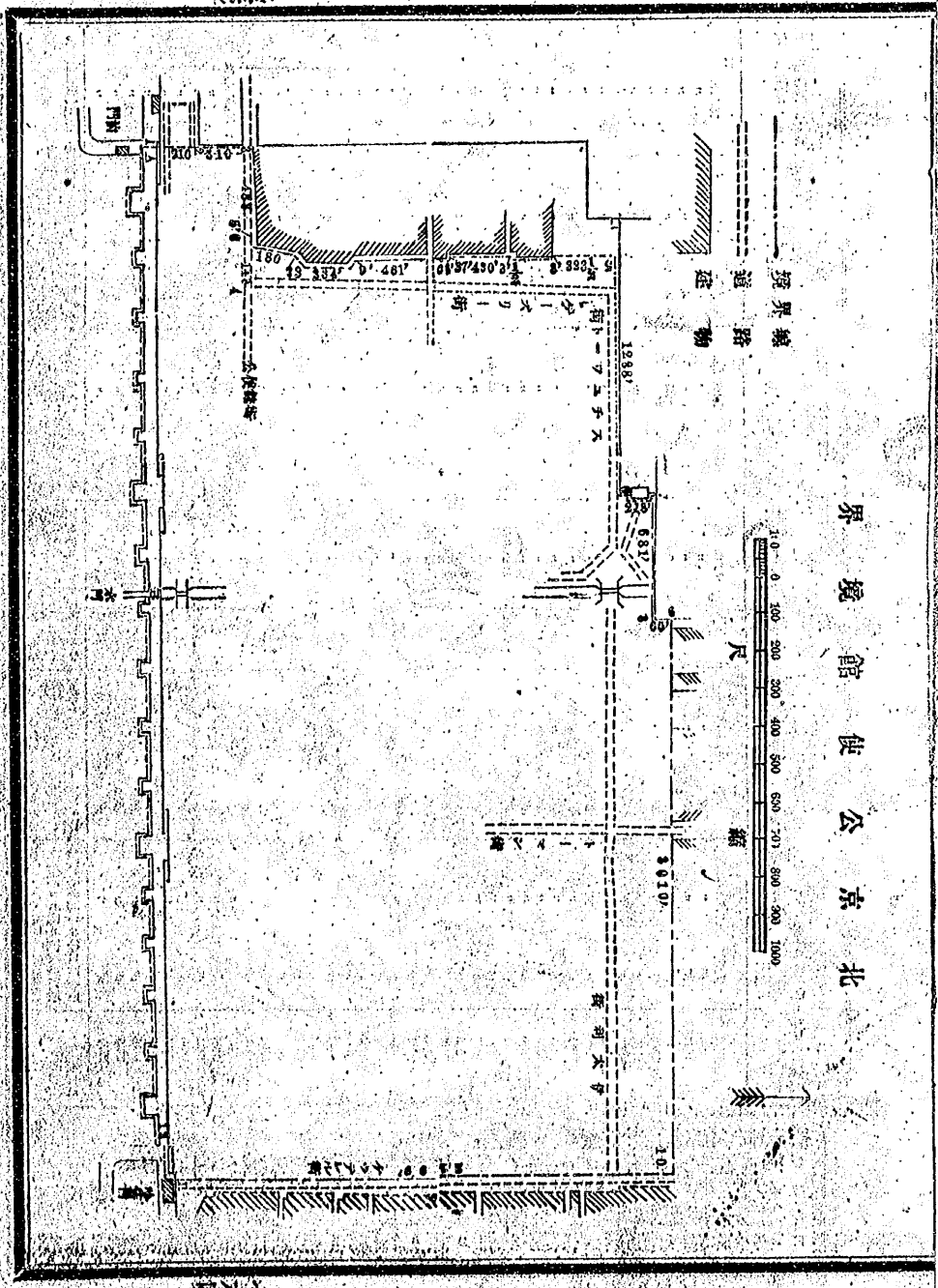
0700



印

皇統議定書
附録
高島
二付
三付
七

表
右
高
二
合
中
二
ス
ト
至
合
境
ト



0702

4036

下
ア
キ

附屬書第十五號(千九百一二年二月一日上諭)

各省ノ匪徒名ヲ滅洋ニ藉リ衆ヲ糾メ會ヲ立テ各國人民ヲ攻擊シタルニ因リ
 疊次旨ヲ降シ嚴禁シタルハ當ニ三令五申ノミナラス然ルニ近年山東省管下
 ニ大刀會議和拳等ノ名目アリ到處傳習肆ニ殺掠ヲ行ヒ直隸省內ニ蔓延シ京
 師ニ闖入シ以テ教堂及各國人民各種ノ家屋財產等ヲ焚燬シ使館ヲ圍攻シ罪
 フ鄰邦ニ開キ誤ヲ大局ニ貽スヲ教ス朕其ノ保護未メ至ラザリシヲ以テ汝
 負フ滋々深シ爾百姓平日毛ヲ食ミ土ヲ踐ミ俱ニ國恩ヲ受クルニ拘ハラヌ敢
 テ勇ヲ好ミ鬪狼ノ私ヲ逞フシ符呪邪妄ノ術ヲ習練シ捕ヲ拒キ官ヲ戕ヒ各國
 人民ヲ殺害シ肆ニシテ忌憚スルナク遂ニ此ノ奇禍ヲ肇メ上ハ君父ノ憂ヲ貽
 ス追念ノ餘方ニ深ク痛恨ス既ニ各路ノ統兵大臣ニ嚴飭シ實力勦辦務メテ根
 株ヲ盡クサシメ且義和拳ヲ縱庇シタル王大臣ハ各應得ノ罪ニ照ラシ輕重ヲ
 分別シ法ヲ盡クシ嚴懲セシメ各國人民ヲ殺害凌虐シタル城鎮ニ於テハ一概
 ニ文武各種ノ考試ヲ停止スルコト五箇年以テ懲儆ヲ示ス惟恐ル鄉僻ノ愚民
 尙周知セサルコトヲ故ニ特ニ再ニ嚴ニ申禁ヲ行ヒ以テ教ヘスシテ誅セラル
 ルヲ免カレシム爾軍民人等黨ヲ結ヒ會ニ入ルハ例禁甚嚴ニシテ列朝カ會匪
 ノ案ヲ辦理セシトキ聊カ寬貸セザリシヲ知ルヘシ況ヤ各國皆友邦ニ屬ス教
 民モ亦赤子ニ係ル朝廷ニ於テハ一視同仁臺モ岐視スル無シ故ニ信教者タル
 ト否トヲ論スルナク若或ハ果シテ欺カルル事情アラシムハ亦官司ニ呈報シ
 平ヲ持シテ判斷セラルルヲ聽候スヘシ何ゾ謠傳ニ輕聽シ刑章ヲ藐視スルヲ
 得シ事敗レルノ後黠者ハ遠ク逃レ情者ハ戮ヲ受ク法ノ容レ難キ所ナルモ其
 ノ情實ニ憫ムヘシ此ノ次嚴諭ノ後各宜シテ悔悟自新舊習ヲ痛改スヘシ若再
 ヒ惡ヲ情ミ悛メサルノ徒アリテ各國人民ヲ仇視スル各會ヲ私ニ立テ又ハ擅
 ニ入會シ械ヲ持シテ格闘シ公然劫掠ヲ行フ者アラハ首從各犯ヲ嚴密ニ查拿
 シ法ヲ盡シテ懲治シ決シテ寬貸セズ各省將軍總督巡撫等ノ大官ハ均シク
 牧民ノ責務ヲ有スルニ由リ各其ノ所屬ニ嚴飭シ剴切ニ曉諭シ且此ノ諭旨ヲ
 黃紙ニ印刷シ徧ク張貼ヲ行ヒ每家ニ諭シ每户ニ曉シ勉メテ善良ノ民ト爲リ
 朝廷ヨリ諄々誥諭辭ヲ以テ諄ヲ止ムルノ至意ニ負クナカラシムルヲ務ムヘ
 シ通諭シテ之ヲ知ラシム此ヲ欽メヨ

4037

下り

附屬書第十六號(千九百年十二月二十四日上諭)

中外訂約以來各國人民ノ内地ニ入ルヲ准セシハ載セテ條約ニ在リ朝廷ハ邦交ヲ慎固スル爲メ實力保護スヘキ旨屢次各省ニ諭飭セリ然ルニ地方官等ハ漫トシテ留意セス以テ匪徒肆ニ滋擾ヲ行ヒ各國人民ヲ傷害スルノ案層見迭出スルヲ致ス朕惟フニ自ラ薄徳ニシテ以テ愚民ヲ化導スルナク其ニ深ク疚ヲ引ク而シテ地方各官平日洋務ニ於テ講求スルヲ知ラス交涉ニ於テ大體ヲ知ル無シ以テ原ヲ燎キ火ヲ引キ害ヲ君國ニ貽スニ至ル心ヲ撫シ自ラ問ハス亦嘗ニ安シ難カルヘシ自今以往各精神ヲ振刷シ成見ヲ捐除シ修好睦鄰ハ古今ノ通義ナルヲ知ルヘシ遠人ノ中國ニ來ル或ハ通商以テ有無ヲ懸遷スルアリ或ハ游歴以テ學識ヲ增長スルアリ即傳教ノ士モ亦人ニ善ヲ行フコトヲ

勸ムルヲ以テ本ト爲ス山ニ梯シ海ニ航シ備ニ艱辛ヲ極ム中國既ニ禮義ノ邦ト稱ス宜シク賓主ノ誼ヲ盡クスヘシ況ヤ近年中國人民海外ニ出ツル者數十萬人ニ下ラス其ノ身家財產悉ク各國ノ保全ニ依頼ス即報酬上ヨリ論スルモ亦豈岐視ヲ存スルヲ得ン茲ニ再ヒ責任ヲ直隸及各省文武大官ニ負ハシメ所屬ニ通飭シ各國官民管内ニ入ルトキハ務メテ切實ニ照料保護スヘシ若不逞ノ徒アリテ各國人民ヲ凌虐侵害スルコトアラハ立ロニ馳往シテ彈壓シ犯人ヲ捕獲シテ懲辦シ聊カ遲延ニ涉ルヘカラス若或ハ漫ニ覺察スルナク甚シキハ故意ニ縱容シ以テ巨案ヲ釀成シ或ハ條約違反ノ所行アルモ即時ニ彈壓セス犯罪人モ亦立ロニ懲辦セサルニ於テハ當該總督巡撫文武大官及地方有司各官ハ一概ニ革職シ永ク敘用セス他省ニ授效シ開復ヲ希圖スルヲ准サズ亦別ニ獎敘ヲ給スルヲ得ス此ノ次ノ諭旨ハ各省一體ニ刊布シ曉諭ヲ出示シ以テ官民交ニ警戒シ永ク澆風ヲ革ムルヲ期スヘシ此ヲ欽メヨ

附屬書第十七號

- 第一條 上海ニ黃浦江水路局ヲ設置ス
- 第二條 黃浦江水路局ハ同江水路ノ更正及改良機關タリ又其ノ監督機關タルノ兩任務ヲ有ス
- 第三條 黃浦江水路局ノ管轄區域ハ江南機器局ノ下方ノ境界ヨリ機器局灣ノ入口ニ向テ延長スル一線ヲ起點トシテ楊子江ノ赤色浮標ニ至ルマテノ間ニ及ブモノトス

下り

0704

第四條 黃浦江水路局ノ組織左ノ如シ

イ 上海道臺

ロ 上海稅關長

ハ 上海領事團ノ選出ニ係ル者二名

ニ 上海各國商業會議所委員ノ選出ニ係ル同會議所議員二名

ホ 水運會社、商會及商人ニシテ海路貿易ノ爲メ上海、吳淞又ハ其ノ他ノ

黃浦江諸港ニ年額總計五萬噸以上ノ船舶ヲ出入セシムル者等ノ選出ニ
係リ水運業ノ利益ヲ代表スル者二名

ヘ 上海各國居留地會議員一名

ト 上海佛蘭西居留地會議員一名

チ 海路貿易ノ爲メ上海、吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ年額總計二十

萬噸以上ノ船舶ヲ出入セシムル各國ノ代表者一名、此ノ代表者ハ其ノ
國政府之ヲ指定スルモノトス

第五條 職權ニ依テ黃浦江水路局員タル者ハ其ノ據テ以テ局員タルノ本職

ヲ保有スル間ハ其ノ任務ニ在ルモノトス

第六條 居留地會及商業會議所ノ代表者ノ任期ハ一箇年トス但シ直ニ再選

セラルルコトヲ得第四條「チ」項ニ掲記シタル政府ノ指定ニ係ル局員ノ任
期亦一箇年トス其ノ他ノ局員ノ任期ハ三箇年トス但シ直ニ再選セラル
ルコトヲ得

第七條 任期中缺員ヲ生シタルトキハ後任者ノ任期ハ其ノ前任者ノ任期如

柯ニ從ヒ一箇年又ハ三箇年トス

第八條 黃浦江水路局ハ一箇年ノ任期ヲ以テ局員中ヨリ議長及副議長ヲ選

任スヘシ

議長ノ選舉ニ於テ多數ヲ成立セサルトキハ筆頭領事ニ對シ其ノ表決ヲ以

テ多數ヲ成立セシムルコトヲ請求スヘシ

第九條 議長不在ノ場合ニハ副議長之ニ代ルヘシ

議長及副議長共ニ不在ナルトキハ出席委員ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ

第十條 總務局長ノ會議ニ於テ表決可否同數ナルトキハ議長ノ表決ヲ以テ

之ヲ決ス

第十一條 局員四名以上ヲ出席アルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十二條 黃浦江水路局ハ事業ノ實行及規則ノ施行上必要ナリト認ムル役員及雇員ヲ任命シ其ノ俸給・給料・賞與等ヲ決定シ其ノ使用ニ供セラレタル資金中ヨリ之ヲ支拂フヘシ又該員等ニ適用スヘキ規則ヲ制定シ各般ノ措置ヲ爲シ且權意ニ之ヲ解任スルコトヲ得

第十三條 黃浦江水路局ハ運輸交通上ノ取締ノ爲メ必要ナル措置ヲ決定ス

第十四條 黃浦江水路局ハ外國雜居地ヲ通過スル河川及其ノ他ノ上海ノ佛蘭西居留地・各國居留地並ニ吳淞ノ外國雜居地ヲ通過スル河川及其ノ他ノ黃浦江ニ注ク河川等一切水路ノ河口ヨリ上流ニ哩ニ至ル迄ノ距離以內ニ於ケル船舶繫留ニ要スル機具ノ裝置及船舶繫留ニ關スル規定等モ亦該局ノ決定ニ屬ス

第十五條 黃浦江水路局ハ黃浦江ニ於ケル一個人ノ所有ニ屬スル据附ケル船舶留機具ヲ收用シ公共ノ繫留組織ヲ設定スルノ權ヲ有ス

第十六條 第十三條ニ記載シタル區域ニ於ケル河川ノ浚渫・埠頭・棧橋ノ築造等ノ如キ各事業ノ實行及橋船家船ノ設置ニ就テハ該局ノ許可ヲ受ケルヲ要ス該局ハ之ヲ拒否スルヲ得

第十七條 黃浦江水路局ハ黃浦江及前記諸河川ニ於ケル一切ノ轉害物ヲ除去セシメ又若其ノ必要アルトキハ該障害物除去ノ爲ニ生スル費用ヲ責任者ヨリ徵收スルノ全權ヲ有ス

第十八條 黃浦江水路局ハ黃浦江ノ前記區域內及第十三條ニ記載シタル諸河川ニ於ケル浮燈・浮標・立標・陸標・標燈ノ處分及水路航行ノ安全ニ必要ナル其ノ他ノ陸上裝置機具ノ處分權ヲ有ス但シ燈臺ハ之ヲ除キ從前ノ通り千八百五十八年ノ英清條約第三十二條ノ規定ニ依ル

第十九條 黃浦江水路局ノ改具保存ニ關スル事業ハ其ノ實行上黃浦江水路局ノ管轄區域外ニ涉ルヲ要スルモノト雖一切該局ノ工事監督ノ下ニ屬ス但シ此ノ場合ニハ清國官廳ヲ經由シテ必要ノ命令ヲ傳達シ且其ノ承諾ヲ得テ實行スヘシ

第二十條 黃浦江水路局ハ事業ノ爲メ徵收シタル一切ノ資金ニ關スル收納及任拂ヲ掌シ且當該官廳トノ協議ニ依リ賦課金ノ取立及規則ノ適用ヲ確實ナラシムルニ適當ナル一切ノ處置ヲ執ルヘシ

第二十一條 黃浦江水路局ハ長及其ノ屬僚ヲ任命シ此ノ職員ハ黃浦江水路局ニ付與セラレタル權限內ニ於テ第十三條ニ掲記シタル黃浦江ノ區域內ニ其ノ職務ヲ執行スヘシ

和

第二十一條 黃浦江水路局ハ其ノ規則及命令ノ施行ヲ確實ナラシムルニ
警察及監視事務ニ關スル職司ヲ組織スルノ權ヲ有ス

第二十二條 黃浦江水路局ハ上海水先案内(楊子江下流水先案内)業ノ指揮
監督權ヲ有ス上海ニ起クヘキ船舶ノ免許、水先案内者ノ免狀ハ專ラ該局
ニ於テ交付シ該局ハ隨意ニ之ヲ處置スルヲ得

第二十三條 黃浦江水路局ハ其ノ規則違犯者アル場合ニハ左ノ如ク犯則者
ニ對シ起訴スヘシ即外國人ニ對シテハ其ノ所屬國領事又ハ當該司法官廳
ニ起訴シ清國人又ハ清國ニ代表者ナキ政府ノ所屬外國人ハ外國人一名ノ
立會フヘキ會審裁判所ニ起訴スヘシ

第二十四條 黃浦江水路局ニ對スル一切ノ訴訟ハ上海領事團裁判所ニ提出
スヘシ黃浦江水路局ハ其ノ書記ニ依リテ訴訟上代理セラルヘシ

第二十五條 黃浦江水路局員及該局ノ使用ニ係ル職員ハ該局ノ決議、行爲
契約及ハ經費ニ對シ一切ノ個人的責任ヲ負ハス但シ其ノ決議、行爲契約
竝ニ經費ハ該局又ハ其ノ支部ノ職權ニ基キ又ハ其ノ命令ニ從ヒ該局發布
ノ規則ヲ制定シ又ハ施行スルコトニ關スルモノタルヲ要ス

第二十六條 本附屬書第十三條ニ記載シタル規定ノ外黃浦江水路局ハ其ノ
權限内ニ於テ必要ナル一切ノ命令規則ヲ發シ且違犯ノ場合ニ對スル罰金
ヲ定ムルノ權ヲ有ス

第二十七條 第二十六條ニ記載シタル命令規則ハ領事團ノ認可ヲ經ルヲ要
ス但シ命令規則案ノ提出後二箇月ヲ經過スルモ領事團カ異議ヲ述べス若
ハ修正ヲ提出セサルトキハ該命令案又ハ規則案ハ認可セラレ且實施スヘ
キモノト見做サルヘシ

第二十八條 黃浦江水路局ハ黃浦江ノ改良保存ニ關スル事業ノ實行ニ必要
ナル一切ノ地所ヲ獲得シ且之ヲ處置スルノ權ヲ有ス若シ之カ爲メ地所ヲ買
收スルヲ有益ナリト認メタルトキハ上海洋涇濱北外部外國居留地土地規則
第六條(イ)項ノ規定ニ從フ此ノ場合ニ於テハ左ノ如ク組織シタル委員ヲ
シテ其ノ代價ヲ定メシムヘシ

第一 土地所有者所屬ノ官廳ニ於テ選定シタル者一名

第二 黃浦江水路局ニ於テ選定シタル者一名

第三 華領領事ニ於テ選定シタル者一名

第二十九條 沿岸地所有權ノ前記ノ水路ニ改竄ヲ加フル爲メ施シタル埋設工事ニ因リ其ノ所管地ノ浦面ニ注シタル土地ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス此ノ土地獲得ノ代價ハ第二十八條ニ於ケル同一ノ方法ヲ以テ組織シタル委員ヲシテ之ヲ定メシムヘシ

第三十條

黃浦江水路局ノ收入ハ左ノ諸賦課金ヨリ成立スルモノトス

イ 佛蘭西居留地及各國居留地ニ於ケル建築家アリ又ハ建築家ナキ地所ノ課稅價格ノ千分ノ一ニ相當スル年賦課金

ロ 江南機器局ノ下方ノ境界ヨリ機器局灣ノ入口ニ向ツテ延長スル一線ヲ起點トシテ黃浦江ノ揚子江ニ注ク所ニ至ル迄ノ間ニ於ケル黃浦江沿岸ノ土地ニ對スル前同様ノ賦課金此ノ土地ノ課稅價格ハ第二十八條ニ記載シタル委員ヲシテ之ヲ定メシムヘシ

ハ 上海吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ出入スル百五十噸以上ノ支那形ニ非サル船舶ニ對シテ噸ニ付銀五分ノ賦課金

百五十噸及百五十噸以下ノ支那形ニ非サル船舶ハ前記賦課金ノ四分ノ一ヲ支拂フヘシ此ノ賦課金ハ船舶ノ出入幾回ナルニ拘ラス四箇月ニ唯一回之ヲ取立ルモノトス揚子江ヲ航行スル支那形ニ非サル船舶ニシテ單ニ航行免許證ヲ受取ル目的ヲ以テ吳淞ニ停留スルモノハ該港ニ出入ノ際商行爲ニ從事セサル限りハ前記賦課金ヲ免除ス但シ吳淞ニ於テ飲料水及食品ヲ購入スルハ自由ナルヘシ

ニ 上海吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ於テ稅關ニ居出タル各商品ニ對スル千分ノ一ノ賦課金

ホ 各關係外國人ノ釀出金額ニ均シキ清國政府ノ年釀金

第三十一條 第三十條ニ列舉シタル賦課金ハ左ノ官廳ヲ經由シテ之ヲ徵收スルモノトス

- (イ) 項ノ賦課金ハ各居留地會ヲ經由ス
- (ロ) 項ノ賦課金ハ清國ニ代表者アル政府ノ所屬國民ニ係ルトキハ其ノ國領事ヲ經由シ清國人又ハ清國ニ代表者ナキ政府ノ所屬國民ニ係ルトキハ道臺ヲ經由ス
- (ハ) 項(ニ) 項ノ賦課金ハ新稅關ヲ經由ス

木村

第三十二條 黃浦江水路局ノ歳入總額ヲ以テ事業經營ノ爲メ借入レタル資金ノ元利償還既成事業ノ維持及一般ノ經費ニ充ツルニ足ラサルトキハ該局ハ航海業 建築家アリ又建築家ナキ土地及貿易ニ對シ同一ノ割合ヲ以テ各種ノ賦課金ヲ増加シ必要ト認定セラルル額ニ達セシムルノ權ヲ有ス此ノ未必ノ増加ハ第三十條(ホ)項ニ記載シタル清國政府ノ釐出金額ニモ同一ノ割合ヲ以テ之ヲ適用スヘシ

第三十三條 黃浦江水路局ハ第三十二條ニ規定シタル賦課金増加ノ必要ハ豫メ之ヲ南洋大臣及上海領事團ニ通告スルヲ要ス而シテ上海領事團ノ認可ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ實行スルヲ得ズ

第三十四條 黃浦江水路局ハ年度計算ノ終結後六箇月以内ニ前十二箇月間ノ一般ノ狀況及收支ニ關スル詳細ノ報告ヲ南洋大臣及上海領事團ニ提出スヘシ此ノ報告ハ公示スヘキモノトス

第三十五條 精算公示シタル收支ノ計算ニ依リ收入ノ支出ニ超過スルコト證明セラレタルトキハ上海領事團ト黃浦江水路局トノ協議ニ依リ第三十條ニ記載シタル賦課金ヲ同一ノ割合ヲ以テ減額スヘシ

此ノ未必減額ハ第三十條(ホ)項ニ記載シタル清國政府ノ釐出金額ニモ之ヲ適用スヘシ

第三十六條 初三年ノ期限満チタルトキハ各締約國ハ本附屬書ニ記載セル條項中改正ヲ要スルヤ否ヤヲ共同審査スヘシ尙右ト同一ノ條件ニ依リ三年毎ニ改正ヲ行フヲ得ヘシ

第三十七條 黃浦江水路局ノ命令ハ第三十條ニ記載シタル區域内ニ於テハ上海領事團ノ認可ヲ經タルモノニ限り各外國人ニ對シテ效力ヲ有スヘシ

千九百一一年九月七日北京ニ於テ

下
下

下
下

附屬書第十八號(千九百一二年七月二十四日上諭)

光緒二十七年六月九日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス
 從來官ヲ設ケ職ヲ分ツハ惟時ニ依リ宜ヲ制スルニ在リタリ今ヤ重テ和議ヲ
 定ムルノ時ニ際ス邦交ヲ以テ重ト爲シ一切信ヲ講シ睦ヲ修スルハ尤モ人ヲ
 得テ理スルニ賴ル從前總理各國事務衙門ヲ設立シテ交涉ヲ辨理シ歷テ年所
 アリト雖惟派スル所ノ王大臣等ハ多ク兼攝ニ係リ心ヲ職守ニ殫グス能ハス
 自ラ應ニ特ニ專員ヲ設ケ以テ責成ヲ專ニスヘシ總理各國事務衙門ハ改メテ
 外務部ト爲シ六部ノ前ニ班列セシメ和碩慶親王奕劻ヲ簡派シテ總理外務部
 事務ト爲シ體仁閣大學士王文韶ヲ會辦外務部大臣ト爲シ工部尙書翟鴻禨ヲ
 外務部尙書ニ轉補シテ會辦大臣ト爲シ太僕寺卿徐壽朋候補三品京堂聯芳
 ニハ外務部左右侍郎ヲ補授ス該部ニ設クヘキ一切ノ司員定數選補ノ章程
 及各長官并各官ニハ如何ニ俸祿ヲ優給スヘキヤノ一事ハ政務處大臣ヲシテ
 吏部ニ會同シ妥速ニ覈議シテ具奏セシム此ヲ欽メヨ

附屬書第十九號

謁見ニ付遵守スヘキ儀式覺書
 第一 清國皇帝陛下ヨリ外交官團體又ハ各國代表者各別ニ賜ハルヘキ謁
 見ハ乾正宮正殿内ニ於テスルモノトス
 第二 右謁見ノ爲メ參内又ハ退出ノ際各國代表者ハ景運門外マテ其ノ橋
 ニ乘リ該門ニテ橋ヲ降り乾清門階前マテ小橋(椅橋)ニ乘リ該所ヨリ乾清宮
 内陛下ノ御前マテ步行スルモノトス
 退出ノ時モ亦各國代表者ハ右參内ノ時ト同一ノ方式ヲ以テ其ノ居館ニ歸ル
 モノトス
 第三 各國代表者カ其ノ信任狀又ハ其ノ國元首ノ親翰ヲ清國皇帝陛下ニ
 捧呈セントスルトキハ皇帝ハ親王乗用ノモノニ均シキ飾及黃纓ヲ具ヘタル
 橋ヲ該代表者ノ居館ニ遣シテ之ヲ迎ヘ其ノ歸館スルトキ亦同一ノ方法ヲ以
 テ之ヲ送ラルヘキ又其ノ往復ニ隨從セシムル爲メ儀仗兵一隊ヲ該代表者ノ
 居館ニ遣サルヘキモノトス
 第四 信任狀又ハ其ノ國元首ノ親翰ヲ捧呈スルニ當リ各國代表者該書狀

七六七

岡田

ヲ携帶スル間ハ陛下ノ御前ニ至ルマテノ宮城各門ハ其ノ中央出入口ヲ通過
スルモノトス
右謁見後退出ノ時ハ其ノ通行セントスル各門ニ關シテハ北京宮廷ニ於テ外
國代表者ノ謁見ニ付既定シタル慣例ニ遵フモノトス
第五 皇帝ハ外國代表者ヨリ捧呈セントスル前掲ノ書狀ヲ直接ニ其ノ手
中ニ收受セララルモノトス
第六 皇帝ニ於テ各國代表者ヲ招宴セララルトキハ其ノ宴席ヲ大内ノ殿
中ニ設ケラルヘク且陛下之ニ親臨セララルヘキモノトス
第七 要スルニ各國代表者ニ關シ清國ノ採用スヘキ儀式ハ如何ナル場合
ニ於テモ關係諸國ト清國トノ完全ナル同等ニ基由セサルコトナク又毫モ相
互ノ威嚴ヲ傷クルコトナカルヘキモノトス

0711